
パレット保育園 長津田

*** 評価結果 ***

2015年2月

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関第26号 横浜市福祉サービス第三者評価指定機関第17号

評価実施機関：特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201号

TEL045-228-9117・FAX045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



実施概要

事業所名	パレット保育園 長津田
報告書作成日	2015年2月3日 (評価に要した期間 5か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

1. 自己評価	【実施期間：2014年9月1日～10月27日】 ・ミーティングにて趣旨を説明し、職員をいくつかのグループに分けて評価のページを担当し、グループ会議時にそれぞれ話し合う。 ・それぞれに持ち寄ったものを施設長、副施設長で話し合ってまとめ、それを職員に配付し再度見直し完成した。
2. 利用者家族アンケート調査	【実施期間：2014年11月1日～11月15日】 配付：全園児の保護者（39家族）に対して、園から手渡しした。 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査	【実施日：2014年12月16日、12月18日】 ■第1日目 ①午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 ②午後：書類調査～事業者面接調査（施設長・副施設長） ■第2日目 ①午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 ②午後：職員ヒアリング（クラスリーダー5名、栄養士、非常勤職員1名）～事業者面接調査（施設長・副施設長）
4. 利用者本人調査	【実施日：2014年12月16日、12月18日】 ①訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。 ②乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。

評価結果についての講評

(高く評価できる点、独自性のある点、今後期待される点、工夫改善点などについての総括)

【施設の概要】

パレット保育園・長津田は、JR横浜線 と、東急の 田園都市線 ・こどもの国線 が乗り入れる長津田駅西口から直ぐ近くにある東急電鉄社宅の 1 階にあります。駅周辺は住宅、飲食店や商業施設も多く賑やかですが、西口側は住宅道路となっているため、大きな車両も入らず、静かな一角となっています。少し足を伸ばすと緑地や公園も多く、子どもたちが自然に触れられる環境にあります。

当園は株式会社理究が 2003 年に開設しました。なお、同社は同園以外に 横浜市認可保育所 4 園のほか、東京都や神奈川県内で保育所事業などを展開しています。

定員は 45 名、開園時間は平日 7 時～20 時、土曜日 8 時～16 時です。園は東急線沿いの集合住宅にありますので、線路との間に園庭があります。園の施設は、0、1 歳児、2、3 歳児、4、5 歳児の保育室は合同となり、活動に応じて、使い分けています。そのほか、事務室、厨房、倉庫兼ロッカールームなどがあります。

保育理念は、“ひとりひとりに生きる力を！”という標題のもと、下記の通り掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。

- ・ひとりひとりを「大きな家族」の一員として認め、役割を認識させ、愛情を持って育てます。
- ・ひとりひとりの子どもを見極め、発達段階に応じ、「感性・知性・体力（からだりき）を培う」三位一体のバランス保育・教育を信条として育てます。
- ・ひとりひとりが意欲的な生命力を発揮できるよう「自立と自尊と自律」の精神を大切に育てます。

保育の方針として、“「保育所保育方針」に準じ、保育・養護の視点と発達・教育の視点で、「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」の五領域を縦断的にとらえ、子どもの成長に合せ、子どもの力を最大限に引き出すよう努める”ことを明記しています。

1. 高く評価できる点

●子どもたちは、元気良く自信を持って、自分で考える力を身につけています

毎日の散歩では、季節や自然を観察したり触れることで、感性を高めるとともに、少し遠くまで歩き、体力を鍛えています。さらに、リトミックで、ピアノ伴奏に合わせて身体を使って表現したり、平均台など大型の遊具での遊びを通して、運動面の発達に繋がっています。

一斉活動の時間には、皆で一緒に遊具を使う・順番に行うなどのルールや、自分の思いを言葉で伝えることや譲り合うことなどを学んでいます。

子どもたちは、自由遊びの時間に、リトミックや朝の会の歌を歌ったり、教材を取り出して線や文字を書くことを楽しんでいます。また、子どもたちは、恐竜の本を見ながら、想像を膨らませてブロックで上手に実物そっくりに作ったり、折り紙の本を見て、自分で考えながら難しい造形に挑戦するなど、自分たちで遊びを作り上げています。また、子ども同士で遊んでいる時に自分の意見をはっきりと言いますが、友だちの異なる意見や行動に対しても、「それもいいね」と受け入れる姿が見られるなど、自分で考え判断する力を持っていることが感じられました。

2 クラスが同じ教室であることや散歩や屋外活動で異年齢がふれあう機会が多く、年上の子が年下の子を

気遣ったり、子ども同士で学びあうほか、保育者が担任以外の子どもにも声をかけたり会話を楽しんだりして、信頼関係を築いています。

子どもたちは、園の理念である「大きな家族」の中で他人を思いやる心が育まれている様子がうかがわれます。

●保育者の前向きな姿勢と職員間の連携により、子どもたちにとって、ゆったりとした居心地の良い環境が作られています

保育者は、子どもの気持ちを受け止め理解し、一人一人に合った保育をすることや、子どもの人格を尊重することを、常にクラス会議、全体会議、職員会議などで取り上げています。内部研修や外部研修に積極的に参加するだけでなく、日常的に、会議の中で園の理念や保育方針に対する意見交換を行うことで、若い職員の学びに繋がっています。

全職員が落ち着いて、子どもの様子を観察し、情報を共有し、意見を出し合って、子どもが落ち着いて遊べる環境を作り、子どもの自由な発想を受け止め、集団活動に取り入れるように努めています。

また、子どもの「やりたい」という意欲を大切に、うまくできない子どもには、保育士は「もうちょっと」などと声かけし、クラスの枠を越えて、子どもたちが自分の力で取り組む様子を見守り、出来たときには、担任以外も認めることで、自分で達成した喜びを子ども自身が感じられるようにしています。

2. 独自の取り組み

●学習カリキュラム

「パレット学習タイム」を週に1回、行っています。平成26年度の進行方法として、専門の講師と担任が連携して、事前に打ち合わせを行い、担任が中心となって進めています。

内容は、年齢や発達に応じた絵本やお話を題材にして、人とのつながりや思いやりの大切さを学んだり、いろいろな線を描いたり、文字や絵に触れることで、自然に学習意欲を導き、自由遊びとは違う緊張感で、人の話を聞く姿勢や集中力が身につくように工夫しています。

3. 工夫・改善が望まれる点

●ノウハウを活かした地域の子育て支援が期待されます

園が主催して行う夏祭りは、ポスターを掲示して地域住民に知らせるとともに招待したり、飼育したカブトムシが卵を産み、幼虫になったときに、門に掲示をして貰い手を募ったり、給食のレシピカードを掲示して自由に持って行ってもらうなど、近隣との友好的な関係を築くために取り組んでいます。

せっかくの地域との接点ですので、それをきっかけに感想をいただいたり、その後の情報交換など交流を続ける等、さらなる工夫が期待されます。

また、育児相談について、実施日、受付方法などを、地域住民の目に留まる場所に掲示していますが、相談実績にはつながっていません。

マンション内の保育園であり、園舎や園庭が狭いため、一時保育・交流保育・園庭開放等の実施は難しい面もありますが、見学に来園した親子に園庭で子どもたちと過ごしてもらうなどの取り組みはしています。もう一歩進め、散歩先の公園で出会う親子に声を掛け子どもたちと一緒に遊ぶ機会を提供したり、在園児の負担にならない範囲で、カリキュラム体験やランチ交流の実施、豊富な絵本や教材、ノウハウなどを活かし、培ってきた専門性を地域に還元するなど、大切な役割を担っていくことをさらに期待します。

分類別評価結果



「ひょう太マーク」は、各評価分類の水準を表しています。
 3 つ：高い水準にある 2 つ：一定の水準にある 1 つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
I-1 保育方針の共通理解と 保育課程等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念は、“ひとりひとりに生きる力を！”という標題の元、下記の通り掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・ 一人一人を「大きな家族」の一員として認め、役割を認識させ、愛情を持って育てます。 ・ 一人一人の子どもを見極め、発達段階に応じ、「感性・知性・体力（からだりき）を培う」三位一体のバランス保育・教育を信条として育てます。 ・ 一人一人が意欲的な生命力を発揮できるよう「自立と自尊と自律」の精神を大切に育てます。 ・ 保育の方針として、“「保育所保育方針」に準じ、保育・養護の視点と発達・教育の視点で、「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」の五領域を縦断的にとらえ、子どもの成長に合せ、子どもの力を最大限に引き出すよう努める”ことを明記しています。 ・ 保育課程は、大人主体ではなく、子どもにとってどうなのか、子どもの現状を見ながら、子どもの最善の利益を第一義にしています。また、保育の基本方針や家庭の状況、豊かな自然や地域とのつながりを考慮して保育課程を作成しています。 ・ 子ども一人一人の発達の状態やそのときの状況に応じて、必要なことをきちんと説明し、納得できることを大切にしています。また、子どもの意見・意思を指導計画の見直しに活かし、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画となっています。
I-2 子どもの発達や状況に 応じた適切な援助の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園までの生育歴や家庭での状況は、「個人カルテ」「健康カルテ」など一式を提出してもらい、把握しています。また、入園説明会で、保護者に面接するときに、子どもの様子をよく観察し、重要な事項は全職員で共有し、日々の保育に活かしています。 ・ 短縮保育（ならし保育）が必要な場合は保護者への説明を十分行い、個々の状況に応じて対応し、新入園児受け入れの際は、在園児一人一人に関わるよう、副施設長やフリーの職員、施設長が関わるなどの配慮をしています。 ・ 指導計画は、子どもの発達や状況に応じてクラス担任が中心となり年齢ごとに年間計画・月間指導計画・週案を作成し、計画の作成・評価・改訂にあたっては、施設長や副施設長も関わり、クラス会議や週ミーティ

<p>I-3 快適な施設環境の確保</p> 	<p>ングで取り上げ、複数の職員で検討し作成しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃は当番制でチェックシートに基づき確認しながら行うほか、必要に応じて清掃を行い、保育所の屋内・外とも、常に清潔に保たれています。 ・音楽や保育者の声などは、音量を上げたり、声を張り上げるのではなく、強弱をつけて子どもが自分から聞こうとするのを促すなどの配慮しています。 ・沐浴設備や温水シャワーがあり、適切に管理・清掃され清潔に保っています。 ・0～2歳児の保育室は、子どもの様子に応じて、仕切りを作るなど、小集団保育が行われるよう、保育室の使い方を工夫しています。 ・0、1歳児、2、3歳児、4、5歳児が保育室を共有するほか、月に1、2度、なかよし会という名前で、異年齢児が合同で、歌を歌ったり体操をしたりする時間を作ることで異年齢交流をしています。
<p>I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画は、3歳未満児では個人別の月案を作成し、3歳以上の幼児についても、必要に応じて個別指導計画を作成しています。 ・個別の目標・計画の見直しは定期的（月1回を目安）に行い、さらに子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っています。 ・子どもや家庭の個別の状況・要望、子どもの発達を捉える視点や子どもの姿、保育士の支援等を決められた書式に記録し、入園後の子どもの発達成長記録は、個人別記録票『こんなに大きくなりました』に記録しています。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する子どもについては週ミーティングや園内会議で個別のケースについての情報を共有し対応を話し合い、日々の様子についても毎日の昼ミーティングで情報交換を行っています。 ・保護者の同意を得て、北部地域療育センターや緑福祉保健センターと連携・情報交換をし、医療機関や専門機関から助言や情報が得られる体制をとっています。また、気になる子どもがいる場合には、職員全員で対応の仕方などを話し合いクラス全体での配慮など工夫して、他の子どもとの関わりに配慮をしています。 ・食物アレルギーにおいては、保護者との連携を密にし、医師からの「アレルギー疾患生活管理指導票」と保護者からの「アレルギー除去食申請書」の提出を受けて、除去の内容については毎月の献立に基づき保護者と施設長、担任、調理スタッフが話し合い確認し、除去食を提供しています。 ・外国籍や帰国子女などの在籍はありませんが、受け入れる姿勢があり、日常的に、子ども一人一人の個性を大切にすることの延長として、文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重しています。
<p>I-6 苦情解決体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の苦情受付担当者は施設長、苦情解決責任者は運営会社の取締役としており、「パレット保育園のしおり」の重要事項説明に列記してい



ます。また、園内に「ご意見、ご要望の解決のための仕組みについて」というフローチャートが掲示され、要望、苦情は直接第三者委員にも申し出ができることを伝え、容易に申し出が出来る仕組みになっています。

- ・ 要望や苦情を受け付け対応するためのマニュアル等文書化されたものが整備され、第三者委員を交えて対応する仕組みができています。
- ・ 園単独で解決困難な場合には、外部の権利擁護機関や相談機関との連携体制がつくられています。また、運営会社の「お客様センター」と担当役員が対応する仕組みもあります。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃは棚に仕分けして収納されています。自由遊びのときには、棚を移動してままごとや塗り絵、ブロックなどの遊びのコーナーを作り、子どもが落ち着いて遊べる環境を作っています。 ・クラスごと、異年齢の活動の間に、収納家具の配置を変えて塗り絵や絵本など、一人または少人数で遊んでいます。 ・近隣の保育園やボランティア団体と協力して、季節の花を種から育て、近隣の公園に植えています。 ・園庭では、キュウリ、トウモロコシ、ゴーヤ、枝豆を育てて、収穫した野菜の切り口を観察したあと、ゴーヤスタンプを作っています。 ・カブトムシを育てて、卵から成虫になる過程を観察しています。育てたカブトムシはたくさんの卵を産み、地域の希望者に分けています。散歩の途中で霜柱を見つけたときは、手に取って冷たさを感じています。また、散歩先で見つけた花や虫などは名前を調べて、子どもの興味や関心を深めるようにしています。飼育や栽培、園外活動などで、様々な体験をしています。 ・ピアノ伴奏に合わせて、リトミックを行い、スズメ、ハクチョウ、ウサギなど、身体を使って表現しています。大きな模造紙に絵の具で絵を描くときは、指を使ってダイナミックに描くなど、絵の具に触れてその感触も楽しんでいます。 ・乳児・幼児で分かれて行う朝の会では、子どもたちが元気な声で歌っています。年下の子どもは年上の子どもの歌に合わせて、膝を叩いたり身体を揺らしたりしてリズムを取っています。 ・子ども同士のけんかについては、子ども同士で解決できるように見守ることを基本とし、介入するときには、言葉で相手に伝えるように促しています。 ・0、1歳児、2、3歳児、4、5歳児が同じ教室で過ごしています。散歩などの園外活動を異年齢で行うこともあり、日常で異年齢交流が行われています。また、2クラスが同じ教室で活動することで、担任以外の職員でも子どもに声をかけたり会話を楽しんだり、おもちゃの貸し借りの仲立ちをして、信頼関係を築いています。 ・天気の良い日は散歩等の園外活動を積極的に取り入れています。また、運動プログラムとして、おなかに新聞紙を当てて落ちないように思いっきり走ったり、竹馬でバランス感覚を養ったり、遊びの中で運動能力が高められるよう工夫しています。3歳児以上は、カリキュラムに基づいて年2回の体力測定を実施しています。運営会社で体力測定データを集めて全体の平均値を出し、運動プログラムの見直しにつなげています。

- ・ 乳児クラスでは、ジョイントマットが敷かれたコーナーで、クッションを重ねて登るなど運動能力を高めるような環境を作っています。

Ⅱ - 1

保育内容[生活]



- ・ 子どもの食べる量を把握して、完食の喜びを味わえるようにしています。保育室のパーテーションを開けて、広いスペースのランチルームを作ったり、画用紙に絵を描いてランチマットにしてみたり、音楽に合わせて食事の席をシャッフルしたり、食事を楽しむ工夫をしています。
- ・ 食材は地元の物を使い、食器は安全性に配慮した割れにくい素材のものを使っています。食器や箸、スプーンは、年齢に合わせて大きさを変えています。
- ・ カレーの具材に旬の野菜を使うなど、食事で季節を感じるができるよう工夫しています。また、「ゼリーフライ」（じゃがいもを使った料理）や「ニンジンしりしり」などの郷土料理を取り入れたり、子どもから「おいしそう」と言ってもらえるよう盛り付けに工夫しています。
- ・ 献立表は事前に保護者に配布しています。その日の献立を写真にして掲示し、保護者が見て分かるよう工夫をしています。定期的に給食だよりを発行して、噛むことの大切さや栄養バランスの良い食事の組み合わせなどを載せて、保護者に知らせています。また、「ニンジンが赤いわけ」「おむすびころりん」などの絵本にちなみ、ニンジンジャムやごま塩のおむすびを献立に取り入れていることを「今月の物語メニュー」として給食だよりで紹介しています。
- ・ 食物アレルギーがある場合は、事前に保護者に知らせて、双方で確認をしています。代替え食の提供はしていませんので、保護者に代替えになる物を持参してもらっています。
- ・ 子どもに人気のメニューは、レシピカードを作って保護者が自由に持ち帰ることができるよう掲示しています。
- ・ 午睡のときは、ロールスクリーンで採光の調節をして、職員の足音やドアの開閉が午睡の妨げにならないよう配慮し、静かな音楽をかけて心地よい眠りにつけるよう工夫しています。
- ・ 5歳児は運動会後から午睡しない日を作り、11月には一斉活動としていませんが、体調や活動の状況、子どもが「寝たい」と言ったときなどは休むことができるよう個別に対応しています。
- ・ 活動の切り替えのときに排泄の声をかけています。活動の途中でトイレに行きたくなった子どもは、職員に声をかけてから行っています。0歳児の午睡後にトイレに座ってみることで排泄のタイミングが合うことがあり、1歳児でも日中はおむつを使わないで過ごしているケースがあります。トイレトレーニングは、一人一人の発達状況に応じて、保護者と連携して行っています。

<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・ 安全管理[健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの健康に関するマニュアルがあり、年齢ごとの保育マニュアルにも健康管理に関する項目があります。 ・ 嘱託医による健康診断を年２回、歯科健診を年１回実施しています。プール開始前には、ぎょう虫検査を実施しています。３歳以上は尿検査を毎年行い、４歳児は視聴覚検査を受けています。健診・検査の結果は「児童健康台帳」に残しています。 ・ 健康診断、歯科健診等の結果は、文書で保護者に知らせています。通院や治療が必要な場合は、必要に応じて嘱託医から助言を受けて、保護者に知らせています。 ・ 「感染症予防マニュアル」があり、入園説明会・進級説明会で保護者に知らせています。学校法定伝染病の一覧に出席停止期間等の基準を載せて、各保育室に掲示しています。保育中に発症した場合や近隣の感染症発症の情報を、玄関の掲示板に病名、病状、留意点を掲示して保護者に知らせています。
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・ 安全管理[衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「衛生管理マニュアル」があり、年１回担当職員が交代する時期にチェック項目などの見直しを行っています。 ・ 子どもの歯ブラシは、洗浄後に殺菌灯のついた保管庫で管理しています。各保育室は清掃が行き届き、清潔な状態が保たれています。掃除やおもちゃの消毒について基準は設けていますが、主に担任に任せています。方法等を共有するためにも今後はマニュアルの見直しに職員全員が関わることが望まれます。
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・ 安全管理[安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「事故防止マニュアル」がありロッカーなどの家具は、転倒防止シートで安全対策を講じています。 ・ 全ての職員に配布しているハンドブックに、「安全に関する規定」を載せて周知を図っています。 ・ 通報や避難が迅速に行えるよう、地震や火災、不審者侵入を想定した避難訓練を毎月実施しています。災害等が発生したときは、インターネットのコミュニケーションツールで連絡を取り合う体制を整えています。また、「災害用伝言ダイヤル」「緊急掲示板」で保護者が安否確認できる体制も整えています。 ・ 散歩などの屋外活動で起きた事故・ヒヤリハットについては、報告書を集計・分析してヒヤリハット・マップを作成しています。園内では、子どもの目線で危ないと感じられる箇所に「自分で開けてはいけません」「登らないでね」等の書かれた「ポイントカード」を貼って安全対策をしています。 ・ 近隣の医療機関の連絡先、診察時間等を一覧にして事務室に掲示し、事故やケガのときに迅速に対応できるようにしています。子どものケガは、小さいケガでも連絡ノートに記載し、口頭でも保護者に報告しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関はオートロックで施錠されており、インターホンで確認してから開錠しています。警備会社と契約を交わし、警報ブザーや不審者侵入等の緊急通報体制を整えています。
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権をテーマにした園内研修を行い、子どもの人権について話し合う機会としています。子どもの名前は呼び捨てにしないことや意識してフルネームで呼ぶこと、否定語を使わないこと等を話し合っています。子どもと一対一で話をするときは、目の高さを同じにして、子どもの気持ちを受け止めるよう配慮しています。 ・ 保育室に仕切りでコーナーを作り、好きな遊びや一人になれる場所を作っています。けんかの後など気持ちが高ぶっているときは、廊下や空いている部屋で過ごし、威圧感を与えずに一対一で話しあうことで落ち着けるよう配慮しています。また、他の子に聞かれたくないようなときも、同様に対応してプライバシーが守れる空間を確保しています。 ・ 入社時に運営会社で行う研修で、守秘義務について説明を受け全ての職員が誓約書を提出しています。個人情報の取り扱いのガイドラインをマニュアルで明確にし、職員で周知しています。 ・ 保護者には、入園説明会のときに個人情報の取り扱いについて説明して、同意書を交わしています。インターネットから行事の写真等の注文を受けており、ID、パスワードを設定して個人情報の漏えいに配慮しています。 ・ 行事の役決め、食事の席、散歩のときに並ぶ順番など、性差で区別はしていません。人権をテーマにした園内研修で、性差についても学んでおり、父親、母親の役割を固定的に捉えた話し方・表現をせず、肯定的に受け止めるよう配慮しています。父の日、母の日は「感謝の日」としています。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園説明会・進級説明会で園の基本方針を説明し、しおりにも掲載して理解を求めています。園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりを発行して日常の取り組みを保護者に知らせて園の取り組み等が理解できるよう努力しています。 ・ 連絡ノートで個別に活動等の様子を知らせています。個人面談の前には、聞きたいこと、相談したいことなどを「個人面談シート」に記入してもらい、意向を踏まえて面談を行っています。 ・ 保護者から相談を受けるときは、事務室で行う等、人に聞かれないで相談できるよう配慮しています。連絡ノートに心配なことや相談ごとなどが記入されている場合もあり、連絡ノートにアドバイス等を記入して継続的なフォローにつなげています。相談を受けたことを相談の記録として残し、サービスの改善につなげていくことが期待されます。 ・ 園だより、クラスだよりのほか、その日の活動の様子を文書にして

掲示し、保護者に知らせています。また、インターネットでも、行事や日々の活動の様子を確認できるように工夫しています。

- ・ お泊り保育のときには、保育のねらいを掲載した「お泊り保育のしおり」を配布しています。お泊り保育の様子はビデオに残して、後日上映会を行うことで様子を伝えるよう努めています。
- ・ 保育参観の日程は複数設定し、保護者が調整しやすいよう配慮をしています。保育参観やクラス懇談会に出席できなかった保護者には、個別に担任から様子を伝えています。
- ・ 卒園式後の保護者主催の茶話会に、場所を提供しています。茶話会の催しの練習等にも場所を提供し、要望があれば準備などに職員が参加しています。
- ・ 年1回開催している運営委員会は、行事、園の環境等について、保護者代表等と意見交換する場となっています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育てニーズについては、地域住民を行事に招待したときや見学に訪れた際に把握しています。把握したニーズは、ミーティングのときに話し合いをして、情報を共有しています。 ・ 緑区が主催する幼・保・小の研修会「接続期研修会」で、地域の子育てニーズについて課題を明確にし、問題解決に向けての活動に参加しています。 ・ 外部講師を招いて行った交通安全指導のときには、近隣住民に声をかけています。食育指導のキャラクターや横浜市資源循環局のイメージキャラクター「イーオくん」が訪れる際にも近隣住民に気軽に参加してもらうよう園を開放しています。 ・ 緑区が主催する「あつまれっ！みどりっこまつり」で赤ちゃんコーナーを担当し、参加者の親子から、身体測定や離乳食の相談を受けています。また、外部から講師を招いて、ベビーマッサージを行っています。 ・ 地域の子育てニーズを職員で共有していますが、行事に招待したり、離乳食の試食会を行う等で専門性を地域に還元する取り組みが期待されます。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食の献立のレシピをカードにして、地域住民が自由に持って行けるよう門のところに掲示しています。「給食だより」も掲示して、情報提供を行っています。地域住民対象の育児相談を行っています。 ・ 毎週水曜日を育児相談の日と決めています。相談日以外でも柔軟に対応できるようにしています。 ・ 北部地域療育センター、緑福祉保健センターなどの関係機関の情報を一覧にして事務室に掲示しています。緑福祉保健センター主催の研修にも参加しており、発達に不安があるときには保健師に来訪してもらうなど連携ができる体制を整えています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・ 地域コミュニティへの 働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入しており、園主催の夏祭りと地域のお祭りが重ならないよう情報を得てから日程を決める等、自治会との良好な関係を築くよう努めています。 ・近隣の保育園、ボランティア団体と協力して、季節の花を種から育て公園の花壇に植える花苗贈呈式に参加しています。近隣の保育園の子どもたちと定期的交流し、公園のミニ演奏会を鑑賞しています。地域ケアプラザ主催の敬老会では、高齢者にプレゼントを渡すなど地域との交流により生活の充実につなげています。 ・地域への施設開放や備品等の貸し出しは行っていません。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する 情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑区主催の「あつまれっ！みどりっこまつり」に参加し、園のパンフレットを掲示して情報提供をしています。運営会社のホームページでも情報を得ることができます。また、緑区の「みどり子育て応援ガイドブック」に情報を提供しています。 ・入園を希望する方からの問い合わせについては、施設長、事務担当職員が対応しています。見学は、午睡の時間を避けてもらうようお願いし、見学希望者の都合に合わせて対応しています。運営会社に専用のフリーダイヤルがあり、問い合わせには常時対応できるようにしています。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の 受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア受け入れ時マニュアル」があります。ボランティア受け入れの際は、事前にオリエンテーションで園の方針、利用者への配慮等について説明し、個人情報についての誓約書を提出してもらっています。中学生、高校生、大学生の体験ボランティアを積極的に受け入れています。卒園児が、職場体験ボランティアとして訪れています。 ・実習生の受け入れのマニュアルは、「ボランティア受け入れ時マニュアル」を活用しています。事前にオリエンテーションで園の方針、利用者への配慮等について説明しています。実習プログラムは、実習期間や本人の希望をオリエンテーションのときに確認し、目的に応じた効果的な実習が行われるよう工夫しています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営会社の人材育成課が、長期的な視点に立って、保育所運営に十分な人材構成を考慮して、人材の補充を行っています。また、個々の職員の資質向上に向け、職員は、毎年「スタッフできたかな表」を作成し、資質の向上に向けた自己目標を設定し、ケアや指導に関する自己評価をするほか、施設長と面談して達成度の評価を行っています。 ・ 職員ごとの必要性と本人の希望を考慮して研修計画を作成し、非常勤職員も常勤職員（社員）同様に全体研修・全園研修に参加しています。 ・ 非常勤職員に対し、職員と同様に研修に参加できるほか、毎月の園内会議で常勤職員と共に、全ての職員に配布しているハンドブックを確認するなど、職員間の連携に配慮し、資質向上への取り組みを行っています。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の技術向上の仕組みとして、行事の日の午後を会議の日として、自己評価や、保育所の自己評価を行う仕組みがあり、園内会議・乳児会議・幼児会議・お部屋会議などは、定期的なサービスの見直しや職員のスキルアップに向けての自己評価の機会になっています。 ・ 保育や業務の自己評価は、園内会議・乳児会議・幼児会議・クラス会議で取り上げ、計画作成に反映させるほか、計画で意図した保育のねらいと関連付けて行われているか確認する仕組みができています。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職務分掌は、施設長、副施設長、クラスリーダーに分け、それぞれの職務分掌が定められ、経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されています。 ・ 職員からの業務改善策は、提案の都度、職員会議で話し合い、検討し保育へ反映するように努めるほか、施設長は日常の話し合いや面談を通じ、職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域Ⅵ 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅵ－１ 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就業規則の服務規律の中で、組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理等、規則や倫理について明文化し、経営、運営状況等の情報は、運営会社本部の「運営要項」などで全園に周知しています。 ・ 省エネルギーの促進・緑化の推進などの取り組みを行い、室温設定やクールビズ、ウォームビズなどの取り組みを保育マニュアルや社内報に掲載するなど、明文化しています。横浜市資源循環局のイメージキャラクター「イーオくん」を呼んでエコについての学習を行うなど、環境配慮の考え方や取り組みを運営に活かすよう努めています。
<p>Ⅵ－２ 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念・基本方針を明文化したものを掲示及び職員に配布しています。保育理念・保育方針・スタッフの使命などを事務室や入り口など園内に掲示するほか、「ハンドブック」を全スタッフに配布し、週ミーティングや園内会議等で理解を促すための説明をしています。 ・ 重要な意思決定にあたり、施設長は、懇談会や進級説明会において保護者との意見交換を必ず行い、行事後の保護者アンケート結果を会議などで検討し、保育に活かしています。 ・ スーパーバイズのできる副施設長（主任クラス）を計画的に育成するために、幹部候補職員は年間を通して研修プログラムがあります。週１回副施設長ミーティングを実施し、保育士個々の業務などの確認・指導をしています。
<p>Ⅵ－３ 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営会社として、運営状況・行政の動き・周辺情報など、事業運営に影響のある外部環境の変化を収集・分析し、月１回の施設長会議で全園の施設長が情報を共有し、重要な情報は、重点改善課題として職員に周知できる体制ができています。 ・ 運営会社として、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成し、月１回の施設長会議・運営会社幹部との施設長面談で事業計画について意見交換を行い、次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たなしくみを常に検討しています。

利用者家族アンケート分析

【実施概要】

- 実施期間：2014年10月20日～2014年11月5日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。
- 回収率：配付39件、回収23件、回収率59.0%

【結果の特徴】

保育園の総合満足度は、回収された全員が「満足」と「どちらかといえば満足」と回答しています。項目別では、日常の保育内容の「遊び」について、「不満」「どちらかといえば不満」という回答がなく、遊びや活動については保護者の満足度が得られていることがうかがえます。自由記述欄には、「クラスの枠を越えて、全員で子どもを見てくれていると実感できます」「本当に言うことがありません、感謝しています」といった感謝の言葉が記載されていました。

●園の保育目標や保育方針について

「よく知っている」と「まあ知っている」を併せると91.3%が理解し、知っている人では95.2%が「賛同できる」と「まあ賛同できる」と回答しています。

●入園するときの状況について

「入園前の見学や説明」や「園の目標や方針についての説明」の項目で「満足」と「どちらかといえば満足」と回答した人が100%でした。但し、入園後に変更になったことについて、不満な意見もありました。

●日常の保育内容について

「遊び」については、ほぼ全ての項目で100%の人が「満足」と「どちらかといえば満足」と回答しています。自由記述欄では、「戸外遊びが多く、十分に体を動かしていると安心しています」といった意見がありました。

「生活」については、「基本的な生活習慣の自立」「昼寝や休息」「おむつはずし」等、全ての項目で85%以上が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しています。

●職員の対応について

「お子さんが大切にされているか」「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」は100%、「意見や要望への対応」は95.7%が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しています。自由記述欄には「職員同士で情報共有ができていないと思うことがあります」といった声もありますが、「子ども一人一人を一生懸命みてくれています」「職員が楽しんで働かれていますと思います」「クラスの枠を越えて、先生方全員で子どもを見てくれています」という意見がありました。

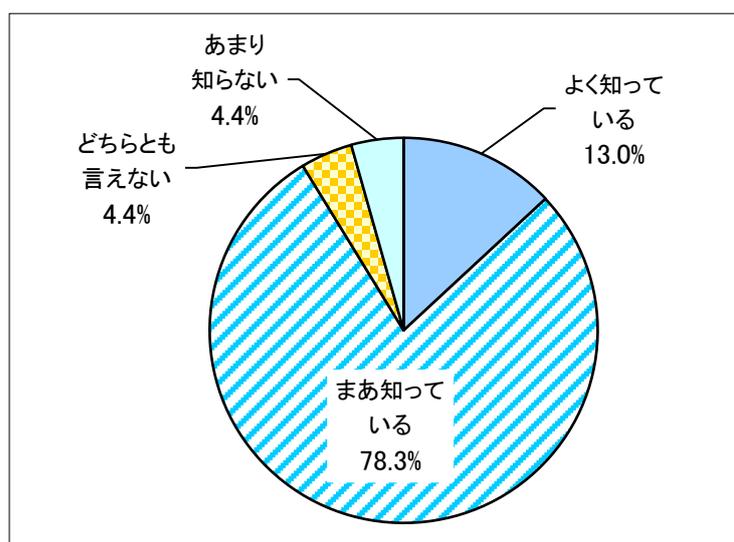
利用者家族アンケート集計結果

調査期間 : 2014年10月20日～11月5日 施設名: パレット保育園長津田
 回収率 : 59.0 %
 配布数 : 39 枚
 回収数 : 23 枚

	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答
クラス別回答数	2	2	4	5	3	7	0

(%)

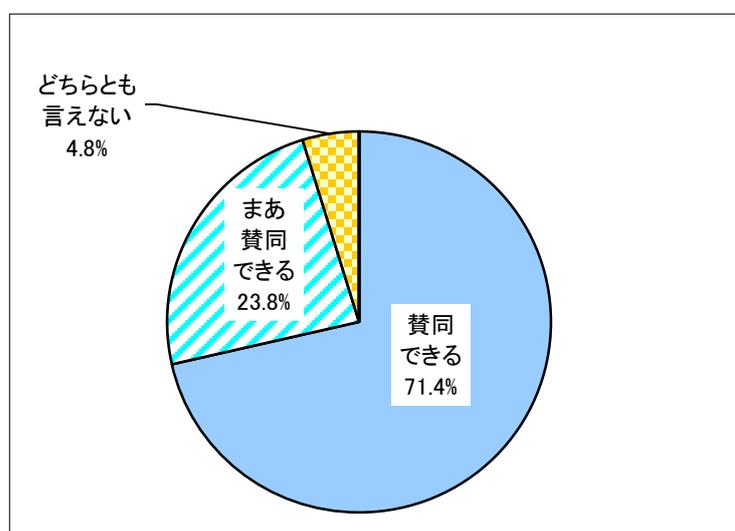
問1:	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも 言えない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答
あなたは、この園の保育目標や 保育方針をご存じですか	13.0	78.3	4.4	4.4	0.0	0.0



付問1:

(%)

付問1:	賛同 できる	まあ 賛同できる	どちらとも 言えない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答
あなたは、その保育目標や保育 方針は賛同できるものだと思いますか	71.4	23.8	4.8	0.0	0.0	0.0



問2: 入園する時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受入については	52.2	39.1	0.0	0.0	4.4	4.4
入園前の見学や説明など、園からの情報提供について	65.2	34.8	0.0	0.0	0.0	0.0
園の目標や方針についての説明には	52.2	47.8	0.0	0.0	0.0	0.0
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	65.2	30.4	4.3	0.0	0.0	0.0
保育園で1日の過ごし方についての説明には	60.9	34.8	4.3	0.0	0.0	0.0
費用やきまりに関する説明には	52.2	43.5	4.3	0.0	0.0	0.0

問3: 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間に保育や行事についての説明には	39.1	47.8	4.3	0.0	8.7	0.0
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	21.7	52.2	13.0	4.3	4.3	4.3

問4: 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては	56.5	43.5	0.0	0.0	0.0	0.0
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	56.5	43.5	0.0	0.0	0.0	0.0
園のおもちゃや教材については	65.2	34.8	0.0	0.0	0.0	0.0
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	56.5	43.5	0.0	0.0	0.0	0.0
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持てているかについては	65.2	30.4	0.0	0.0	4.3	0.0
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	56.5	43.5	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	60.9	30.4	8.7	0.0	0.0	0.0
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	65.2	26.1	4.3	0.0	4.3	0.0
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	60.9	34.8	0.0	0.0	4.3	0.0
昼寝や休息がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	52.2	47.8	0.0	0.0	0.0	0.0
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	52.2	39.1	0.0	0.0	8.7	0.0
お子さんの体調への気配りについては	60.9	34.8	4.3	0.0	0.0	0.0
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応は	47.8	39.1	13.0	0.0	0.0	0.0

問5: 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備について	21.7	60.9	13.0	0.0	0.0	4.3
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについて	47.8	52.2	0.0	0.0	0.0	0.0
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	39.1	52.2	4.3	0.0	4.3	0.0
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	43.5	56.5	0.0	0.0	0.0	0.0

問6: 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	34.8	60.9	0.0	0.0	4.3	0.0
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	47.9	43.5	4.3	0.0	4.3	0.0
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	39.1	47.8	8.7	0.0	4.3	0.0
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	30.4	60.9	4.3	4.3	0.0	0.0
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	34.8	60.9	4.3	0.0	0.0	0.0
保護者からの相談事への対応には	34.8	60.9	0.0	0.0	4.3	0.0
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	30.4	56.5	8.7	0.0	4.3	0.0

問7: 職員の対応について

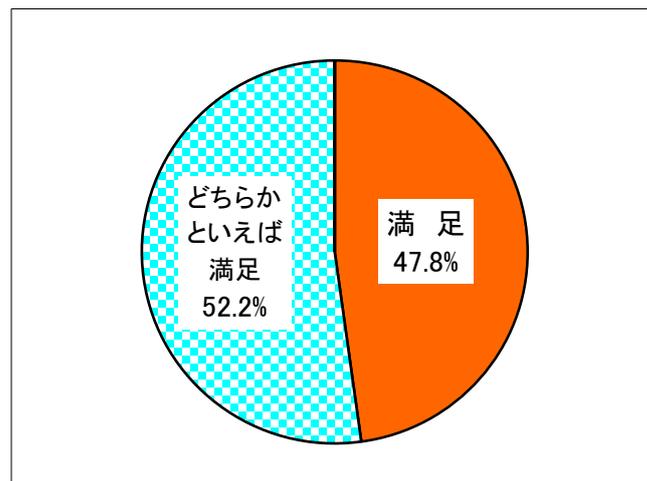
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	52.2	47.8	0.0	0.0	0.0	0.0
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	56.5	43.5	0.0	0.0	0.0	0.0
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	34.7	43.4	4.3	0.0	17.3	0.0
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	56.5	34.8	8.7	0.0	0.0	0.0
意見や要望への対応については	43.5	52.2	4.3	0.0	0.0	0.0

問8: 総合的な評価

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	47.8	52.2	0.0	0.0	0.0





利用者本人調査

【実施概要】

■実施日時：2014年12月16日、2014年12月18日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

■0歳児クラス

0歳児の保育室は、紙で作られた棚と大きいクッションで仕切りを作っています。床にはクッション性のあるジョイントマットを敷いてコーナーを作っています。壁にはペンギンやシマウマなどの動物の写真が飾られており、日差しがたっぷり入る明るい環境で4名の子どもが保育者に抱っこされたり手をつないで歩いたりしています。

午前のおやつの前に、乳児クラスの朝の会に参加します。保育者がピアノでクリスマスソングを弾き始めると、年上の子の様子を見ながら楽しそうに身体でリズムを取っています。保育者に抱っこされている子どもも、みんなが手を叩くのに合わせて膝を叩き、両手をあげるのを見ると両手を挙げて歌に参加しています。朝の会が終わると0、1歳児の保育室に戻り、保育者が膨らませた紙風船で遊んでいます。ふわふわ上がったたり下がったりする風船を目で追う子どもや手を挙げて保育者に話しかける子どもがいます。保育者は子どもと視線を合わせて話をしています。ブロックで遊ぶ子どももいて、思い思いに遊んでいる様子がうかがえました。

■1歳児クラス

場面観察の日は「パレット学習タイム」の日でした。

1つのテーブルに、1歳児5名の子どもが椅子に座っています。子ども一人一人の名前を呼び、名前シールを胸に張ると呼ばれた子どもは「はい」と元気に答えています。12色のクレヨンを机に置いて「どの色が好き」「何色あるかな」「これは何色」と保育者が質問すると「ピンク」「水色」「赤」「黒」と元気に答えています。絵本「くれよんのくろくん」を映写機で映しながら、保育者が読み聞かせを始めます。読み聞かせの間は、立ち上がったたり声を出したりすることはなく、みんな真剣なまなざしで画面に集中しています。読み聞かせが終わると、クリスマスツリーの絵に5色の丸いシールで飾りをつけます。保育者が「これは何色」と聞くと「オレンジ」「オレンジ色のものは何」「みかん」と子どもたちは色を見て連想していきます。最後に「ひげじいさん」の歌を元気に歌って「パレット学習タイム」が終わりました。

その後、ジョイントマットのコーナーで、ブロックや絵本で思い思いに遊んでいます。昼食前には、みんなで椅子取りゲームやCDの音楽に合わせてダンスをしています。昼食の時間になるとトイレに行き、手洗いを済ませています。自分で椅子を運ぶ子どももいます。身体を使って思いっきり遊んだ子どもたちは、食欲旺盛で食事を残す子どもはいませんでした。

■2歳児クラス

9時になると自由遊びが終わり、おもちゃを片付けます。手を洗い終わった子どもから椅子に座り、お当番の子がお手拭きのタオルを配ります。「これ、だーれの」「はい」返事をした子どもの前に濡れたタオルをきちんとたたんで置いていきます。全員のタオルを配り終わると、おやつの時間です。おやつの袋は

自分で開けます。なかなか開けられない子どもに「ここを、前に引っ張るんだよ」と保育者が声をかけると、子どもは一生懸命開けようとしています。みんなが食べ始めても開けられない子どもがいますが、泣いたりせずに一生懸命開けようとしています。「開けられないと食べられないよ。がんばれ」と保育者に言われ、やっと開けられた子どもは嬉しそうにおやつを食べ始めました。

おやつ、朝の会が終わると2歳児、3歳児で手をつなぎ公園に散歩に行きます。いくつもの坂道を登ったり降りたり、30分ほどの道のりの途中で霜柱を見つけると「きれいだね」「冷たいね」と話しています。公園に到着すると、ゲートボールをしている人に手を振って「おはようございます」と挨拶をします。砂場、ブランコ、滑り台、階段など子どもは元気に走ったり、小枝で地面に絵を描いたりして遊んでいます。散歩から帰ると昼食の時間です。2歳児は、お箸の練習を始めたばかりですが、細かい物を上手に箸でつまんで食べている子どももいます。箸が上手く使えない子どもには、「えんぴつ持ちにして、もう一本を入れるの」と保育者が教えていました。

■3歳児クラス

登園してからの朝の自由遊びの時間は、4歳児、5歳児と一緒に過ごしています。3歳児8名の子どもがブロックや絵本、塗り絵などの遊びのコーナーで思い思いに遊び、9時になるとおもちゃを片付けて朝の会が始まります。一番前に座っている3歳児の子どもたちは、保育者が読む絵本に集中しています。読み聞かせが終わって、保育者のピアノに合わせて「しずかなクリスマス」「サンタが街にやってくる」「あわてんぼうのサンタクロース」を元気よく歌います。当番が前に出て、朝の挨拶をします。4歳児、5歳児に倣って並ぶ様子は誇らしげです。

朝の会が終わって、2歳児クラスと一緒に散歩に行きます。公園に着くと、保育者が公園で遊ぶときのルールを子どもたちに話しています。「4つあるブランコは2つまで使っていていいよ。階段を登るときは先生に言ってから一緒に行きましょう。一人では行かないようにしましょう」保育者が話している間、子どもたちは静かに聞いています。散歩から帰ると、保育者が「きらさん(2歳児)を先に入らせてあげようね」と言い、その間子どもたちは一列に並んで待っています。ふざけてしまう子どもに「かっこ悪いのはだれかな」と保育者が言うと崩れていた列が、きれいな列になっています。

■4歳児クラス

3歳児、4歳児、5歳児合同の朝の会が終わると、クラスごとに分かれて出欠を取ります。保育者が一人一人名前を呼ぶと左手を挙げて元気よく「はい」と返事をします。両手を挙げている子どもに「左手を挙げるんだよ」「両方挙げたらいけないんだよ」と他の子どもが言うのを保育者は静かに見守っています。出欠を取り終わると、「今日は雨が降っているから散歩に行けないね」と保育者がみんなに話しています。今日は教室で教材「せんのれんしゅう」をします。えんぴつで、小さい円から少しずつ大きな円を描いていく、星の形や迷路を線でなぞっていくなど、ページに書かれている説明を、自分で読んで始める子どももいます。集中してくると、椅子の上で正座するように座ってしまう子どもに「足をあげないできちんと座ろうね」と保育者が声をかけます。

1時間弱、「せんのれんしゅう」をしたあとは、5歳児と一緒にリトミックをします。保育者のピアノに合わせて、すすめ、かめ、白鳥、うさぎなど身体を使って表現します。途中から2歳児がリトミックに合流しました。

■ 5歳児クラス

保育観察の日は、教室でしめ縄づくりをします。服が汚れないようにお揃いのスモックを着ています。しめ縄づくりの指導をしてくれる保護者から、しめ縄飾りがあると空から見ている神様が「この家はお正月の準備ができています」と判ることや「神様がこの家に良いことをいっぱいあげよう」と来てくれることの説明をみんな真剣に聞いています。餅米のワラを25本ずつ、3束使って作ります。5歳児は一人一つずつ作ります。作り方や由来、12月28日までに飾ることを教えてもらい、指導してくれた保護者が教室を出るときには、自然に「ありがとうございました」と挨拶していました。

制作活動のあとは、4歳児と一緒にリトミックです。ピアノを弾く保育者に「かめがいい」「白鳥がいい」とリクエストしています。途中から2歳児が合流しています。年長児らしく、指先、足先まで使って表現します。リトミックの最後は、2歳児と手をつなぎ行いました。

活動の切り替えのときには、率先して片付けを手伝っています。片付けが終わると、手作りの長いすに座り絵本を読んで静かに待つことができていました。



事業者コメント

パレット保育園・長津田は、「大きな家族」、「感性・知性・体力を培う三位一体のバランス保育」、「自立と自尊と自律」の保育理念を掲げています。
子ども達は、日々の生活を通して「思いやり」を育み、「生きる力」をつけています。

今回の第三者評価では、職員全員が項目ごとに話し合い、振り返り、反省し、自園について改めて見直すよい機会になりました。

利用者の方々の立場になって考えてみる、子ども一人ひとりの個性を大切に日々生活が送れているか、など再認識することが出来ました。

自分たちではなかなか気付けない部分も新たに発見することができ、よりよい園運営へのヒントをたくさん頂きました。

今回の評価を最大限に活用し、今後も向上を目指していきたいと思えます。

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-01

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>

